

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
日本国憲法		こども未来教育学科／1年	2025／後期	講義	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	2単位（30時間）	必須	福田 稔	
授 業 の 概 要					
日本国憲法の学習を通じて、日本社会、教育・教職に対する理解を深める。					
授業終了時の到達目標					
主権者・有権者としての意識、知識を向上させる。					
実務経験有無		実務経験内容			
有		穴吹パティシエ福祉カレッジの「憲法」科目を担当。 行政書士、社会保険労務士、中小企業診断士として、法律関連の知識・最新情報は随時更新している。			
時間外に必要な学修					
憲法改正論議について関心をもってテレビ、新聞の報道に留意してください。					
回	テ ー マ		内 容		
1	現代の憲法 憲法とは何か		近代的憲法の意味。憲法の特徴。憲法の分類。 明治憲法の特徴。		
2	日本国憲法の3原則① 国民主権		国民に主権があるとはどういう意味か		
3	日本国憲法の3原則② 基本的人権の尊重		基本的人権の尊重とはどういう意味か		
4	日本国憲法の3原則③ 平和主義		なぜ国際紛争はなくなるのか		
5	自由権①		思想・良心の自由 学問の自由 表現の自由など		
6	自由権②		職業選択の自由 財産権		
7	社会権①		教育を受ける権利 社会保障制度		
8	社会権②		勤労の権利 労働基準法などワーキングルール		
9	公共の福祉とは		公共の福祉とは何か どこまで制限されるのか		
10	憲法と法律の関係		憲法と法律の関係 新しい法律について		
11	三権分立		立法 司法 行政 政治の仕組み		
12	ダイバーシティ		多様性について 増える外国人労働者		
13	人格権		人格権 プライバシーはどこまで守られるのか		
14	参政権と地方自治		参政権と地方自治 選挙や投票行動について		
15	憲法の保障と改正		憲法の保障と改正 多数決や決め方のルールについて		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
近畿大学九州短大通信教育部『日本国憲法』			期末試験	70.0%	

回	テ ー マ	内 容		
		課題・レポート	30.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
情報処理入門Ⅰ		こども未来教育学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	村上 主典
授 業 の 概 要				
・ 教養科目としてコンピュータ（特にパソコン）の基本的な利用方法を学ぶ。 ・ コンピュータ利用に関し、知っておくべき用語や関連知識の意味を理解する。 ・ スクーリング授業は実習形式（Excelの基本操作）で行う。				
授業終了時の到達目標				
・ コンピュータに関する基本用語を理解し、その発達過程（歴史）を知ることができる。 ・ パソコン利用（特にインターネット利用）に必要な知識を習得できている。 ・ コンピュータ利用に関わる問題点を把握できている。 ・ Windows11とExcelの基本操作を習得できている。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		システムハウスでのプログラマー、システムエンジニアとして10年の勤務および、専門学校での情報分野科目を29年間担当。		
時間外に必要な学修				
・ 専門科目ではないが、普段からコンピュータに興味を持ち、インターネットの活用をはじめ、パソコンやスマートフォンを安全に使うことを心掛ける。 ・ 配布した書き込み式プリントの記入と整理を行うこと。				
回	テ ー マ		内 容	
1	・ 「情報処理入門Ⅰ」の授業について ・ 「情報処理入門Ⅰ」を学ぶ意味・目的 ・ なぜ、コンピュータを使うのか？ ・ 第1章 情報処理の基礎 情報の意味、データと情報と知識、データの種類		・ 「情報処理入門Ⅰ」の授業、「情報処理入門Ⅰ」を学ぶ意味・目的の説明 ・ 授業担当者の自己紹介 ・ 講義形式の授業とスクーリング授業の説明 ・ 授業日程の確認、期末試験、成績評価の説明 ・ コンピュータとは、「どうして、コンピュータを使うのか？」 ・ 身の回りでコンピュータが組み込まれているものを挙げる ・ 情報の意味、データの種類	
2	・ 第1章 情報処理の基礎 ・ 関連知識（トピック①、②） ・ 第2章 コンピュータシステム		・ データ表現の基本的な考え方、アナログとデジタル、数値データの表現、ビットとバイト、文字データの表現、画像データの表現、音声データの表現 ・ コンピュータ関連の補助単位・・・データサイズ（バイト）関連、時間や長さ関連 ・ 計算機械の誕生、電子計算機の誕生と発展、コンピュータの5大装置	
3	・ 第2章 コンピュータシステム ・ 関連知識（トピック③、④）		・ コンピュータの5大装置の説明と図示、プログラム、データ ・ 入力装置の種類と説明 ・ 出力装置の種類と説明 ・ ディスプレイとプリンタに関する関連知識 ・ 光の三原色、印刷の三原色 ・ 記憶装置（主記憶）の説明	
4	・ 第2章 コンピュータシステム ・ 関連知識（トピック⑤） ・ 第3章 ソフトウェア		・ 補助記憶装置の種類と説明 ・ USBに関する説明 ・ 中央処理装置（CPU）の説明 ・ ソフトウェアの概要に関する説明	
5	・ 第3章 ソフトウェア ・ 関連知識（著作権、ユニバーサルデザイン） ・ 第4章 ネットワーク		・ Windowsの種類と説明 ・ Mac OSとLinuxに関する説明 ・ 応用ソフトウェアに関する説明 ・ 応用ソフトウェアの種類と説明 ・ 著作権に関する説明と著作権侵害の事例紹介 ・ ネットワークの意義と種類に関する説明 ・ インターネットに関する説明	

回	テ　　マ	内　　　　　　容		
6	・ 第4章 ネットワーク ・ 第5章 コンピュータとネットワークの脅威	・ 電子メールに関する説明 ・ インターネットの仕組みの説明 ・ ネットワーク犯罪に関する説明 ・ 不正プログラムに関する説明 ・ 情報セキュリティとその対策に関する説明		
7	・ 期末試験	・ これまでの授業内容を範囲とした期末試験の実施 ・ 書き込み式プリントを持ち込み可として実施		
8	・ パソコン利用によるE x c e lの基本操作①	・ W i n d o w s 1 1の基本操作説明 ・ W o r dによるタイピング練習（パソコンスピード検定の過去問題） ・ 学生パソコンにインストールされているO f f i c e 2 0 2 1に合わせ使用するテキストとE x c e lのバージョンも2 0 2 1であることを確認し、スクーリング授業を進めることを説明 ・ テキストにしたがって進めていくので基本的な操作を中心にを行い、2 0 2 1の新機能や高度な使い方は行わないことも説明		
9～ 11	・ パソコン利用によるE x c e lの基本操作②	・ テキスト第4章「E x c e l 2 0 2 1」を順に解説しながら、基本操作を説明する。 ・ 表計算ソフトでの文字と数字、データの編集、オートフィル、データ入力の手順、ファイルの保存と読み込み ・ 計算式の入力、再計算と演算子、表示形式の変更、列幅の変更、表示位置の変更、書式の変更 ・ 関数を使った計算式（合計、平均、最大、最小、数を数える）、パーセントスタイルと小数部表示の調節 ・ 小数点を操作する関数、相対参照と絶対参照、割合を求める、罫線、行の挿入 ・ グラフの作成、項目の追加、離れたデータを使ったグラフ ・ 実習課題：実習13、実習15、実習19		
12～ 14	・ パソコン利用によるE x c e lの基本操作③	・ ワープロ検定3級の過去問題を利用し、W o r dによるタイピング練習（15分）、文書作成（25分） ・ テキスト第4章「E x c e l 2 0 2 1」を順に解説しながら、基本操作を説明する ・ 条件判定（IF）、複合条件による判定、順位付け（RANK、EQ） ・ 列の検索（VLOOKUP）、条件に一致するセルの計算（COUNTIF、SUMIF） ・ セルの参照機能、文字列の結合、セルの条件付き書式、並べ替え、フィルター、セルの結合 ・ 実習課題：実習24、実習25、実習29、実習31、実習32、実習33 ・ 午前中にW o r dで文書作成したファイルとE x c e lデータとの差し込み印刷の設定方法の説明		
15	・ Excelの基本操作の確認	・ ここまでの基本操作を含んだ演習課題作成と提出。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「情報処理入門」（近畿大学九州短期大学通信教育部発行） 「30時間でマスター Office2021（Windows11対応）」（実教出版発行）		期末試験 課題・レポート	50.0% 50.0%	・ 配布した書き込み式プリントの記入と整理を各自で行うこと。 ・ 8回目以降の授業はスクーリングとして実習形式

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
英会話Ⅰ		こども未来教育学科／1年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	村上 直美
授 業 の 概 要				
第一に、英会話の基礎を学習する。社会で、特に仕事の現場において対応できる実践的な会話力の習得を目指す。すなわち、英語を聞いて理解できる力を身につけ、さらには自分の意思を英語で表現できるよう育成する。第二に、英語を通して英語圏の文化に関する知識を得え、日本の文化紹介も意識した学習を行う。英語の童謡を学び、日本の絵本を教材として使用する。				
授業終了時の到達目標				
英語の基礎を理解する。基礎的な単語力、文法力を身につける。授業での活動を通して英語に慣れる。その次の段階として、実際に活用できる英語表現を一つでも多く学び、仕事の現場で日常的に役立つ英語力の習得を目指す。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		英会話塾講師		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	自己紹介・英単語（動物、果物など） 基本的な質問・英語の童謡を歌う		自己紹介。子どもが好む英単語。質問の仕方。英語の童謡を紹介。保育の現場で使用される英語表現。	
2	動物・絵本紹介 英語の童謡を歌う		絵本の紹介とQ&A。英語の童謡を紹介。保育の現場で使用される英語表現。	
3	動詞と時制 語の童謡を歌う		英	動詞と時制による動詞の変化の確認。英語の童謡を紹介。保育の現場で使用される英語表現。
4	形を表す英単語と前置詞 英語の童謡を歌う			様々な形や色、位置を表す英語表現。英語の童謡を紹介。保育の現場で使用される英語表現。
5	数字/時間/日付/曜日 英語の童謡を歌う			時を表す表現。英語の童謡を紹介。保育の現場で使用される英語表現。
6	体の部位 語の童謡を歌う・絵本の翻訳		英	体の部位を表す英語表現。英語の童謡を紹介。ワークショップ（紙芝居の作成）。保育の現場で使用される英語表現。
7	健康状態 英語の童謡を歌う・絵本の翻訳			健康状態を表す英語表現と対話練習。英語の童謡を紹介。ワークショップ（紙芝居の作成）。保育の現場で使用される英語表現。
8	家族 英語の紙芝居をつくる			家族や親戚を表す英語表現とQ&A。英語の童謡を紹介。ワークショップ（紙芝居の作成）。保育の現場で使用される英語表現。
9	場所と道案内 英語の紙芝居をつくる			場所を表す英語表現と道案内。英語の童謡を紹介。ワークショップ（紙芝居の作成）。保育の現場で使用される英語表現。
10	実践コミュニケーションの学習 英語の紙芝居をつくる			ワークショップ（紙芝居の作成）。保育の現場で使用される英語表現。 これまでの復習。
11	実践コミュニケーションの学習 英語の紙芝居をつくる			ワークショップ（紙芝居の作成）。保育の現場で使用される英語表現。 これまでの復習。
12	英語の紙芝居をつくる 実技練習（リーディング・歌）			ワークショップ（紙芝居の仕上げ・リーディングと歌の練習）。 これまでの復習。
13	英語の紙芝居をつくる 実技練習（リーディング・歌）			ワークショップ（紙芝居の仕上げ・リーディングと歌の練習）。 これまでの復習とテスト対策。

回	テ ー マ	内 容		
14	筆記テスト・実技発表	筆記テストの実施。紙芝居と歌のグループ発表。		
15	実技発表	紙芝居と歌のグループ発表。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
Happy English for Childcare (金星堂)		実習・実技評価 確認テスト	50.0% 50.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
健康科学		こども未来教育学科／1年	2025／前期	講義	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	8回	1単位（16時間）	必須	福本 啓祐	
授 業 の 概 要					
健康の維持・増進をする上での基本となる知識や技術など、健康の概念を考える。 現代社会における健康阻害要因や運動不足がもたらす身体における要因などを学習し、その学習活動を通して、学習力をはじめとする能力の向上を目指す。 「こどもの発育発達」については日々の指導の中での実体験、経験を元にそれらの重要性を学び、実際実習に行った際や社会人になるために考える力や実践力の向上に繋げていきます。					
授業終了時の到達目標					
・健康の概念を理解し説明できる。 ・現代社会における健康阻害要因や運動不足がもたらす身体要因に関連づけて説明できる。 ・こどもの発育発達について理解し、年齢に応じての必須事項を理解しする。					
実務経験有無		実務経験内容			
有		保育園・幼稚園にて体育指導 保育士等に体育指導講座実施			
時間外に必要な学修					
回	テ ー マ		内 容		
1	健康の概念を理解しよう		「健康」という言葉が指す意味や内容を理解する。		
2	健康・体力と運動 1		現代社会の健康阻害要因や運動不足の実態を知る。		
3	健康・体力と運動 2		健康を生み出す身体運動、体力の概念		
4	健康・体力と運動 3		体力の構成要素、環境の変化に伴っての社会問題		
5	運動処方、運動の種類		適度な運動とは、種類、分類について		
6	運動の強度、継続時間、頻度		運動を行うにあたっての留意点		
7	演習		学習内容に関するレポートの作成		
8	期末試験		筆記試験		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
生涯スポーツ・健康科学 近畿大学九州短期大学編			期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
生涯スポーツ		こども未来教育学科／1年	2025／後期	演習	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	12回	1単位（24時間）	必須	福本 啓祐	
授 業 の 概 要					
充実した生活を送るうえで基本となる心身の健康を維持、増進していく。そのためのスポーツ、身体活動を通して重要性や本質などについて理解を深める。身体を自由自在に動かす方法やこどもの現場で使える感覚統合など実体験、経験を元実践していく。 球技や体操などでは説明の仕方やルールの決め方、こどもの補助の仕方など実際の現場で必要となる知識や技術の習得に努めます。					
授業終了時の到達目標					
・ 日常での身体活動やスポーツを行うことのできる知識、技術、能力を高められる。 ・ 子どもの発達、成長に関わる身体活動を理解できる。 ・ 実際の現場で必要とされる運動の補助の仕方などを習得する。 ・ スポーツの持つ意義・役割、それらを日常に取り入れていくことができる。					
実務経験有無		実務経験内容			
有		保育園・幼稚園にて体育指導 保育士等に体育指導講座実施			
時間外に必要な学修					
回	テ ー マ		内 容		
1～ 4	身体の巧みなコントロール 1 0～2歳での運動		ウォーミングアップ、ストレッチ、クーリングダウン 身体を自由に操る運動、粗大運動、マット運動		
5～ 8	身体の巧みなコントロール 2 3～5歳での運動		体操、マット運動、跳び箱、鉄棒（補助の仕方） ボールを使つての運動、ミニゲーム		
9～ 12	スポーツ（球技を楽しむ）		サッカー、バレーボール、バスケットボール ストレッチング		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
生涯スポーツ・健康科学 近畿大学九州短期大学編			実習・実技評価	100.0%	授業までの体調管理に努めること

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
教育原理		こども未来教育学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	福田 稔
授 業 の 概 要				
教育原理の学習を通じて、教育・教職に対する教養を高める。				
授業終了時の到達目標				
教育、教育原理に関する教養を高める。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		穴吹教育総合研究所において、教育、モチベーション、人材育成に長く携わってきた。また、付属施設「あなかれ保育園福山」の施設長として、子どもとのかかわり、教育について実務経験を蓄積している。		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	教育とは何か		教育という概念 教育の目的 教育と家族	
2	幼児教育思想の歴史		「子ども観」の今昔 近代幼児教育思想の源流 日本の幼児教育 自己効力感と学習性無力感	
3	教育制度の成立と幼児教育の展開		江戸期における子どもの教育 近代教育制度の成立と幼児教育の普及 松下村塾や寺子屋 学習塾	
4	戦後日本における教育の再出発		戦時下の幼稚園教育 新たな教育制度の成立 保育者養成制度の確立	
5	教育の法規と制度の基礎		戦後日本の教育法規の基礎——日本国憲法と教育基本法 学校とは——学校をめぐる法規と制度	
6	諸外国における教育・保育		シュタイナー モンテッソーリ教育	
7	教育の方法		一斉教授 アクティブラーニング	
8	教育の内容		顕在的カリキュラムと潜在カリキュラム 個別最適な教育	
9	教育の計画と評価		カリキュラムマネジメント PDCAサイクル	
10	現代社会と生涯学習		人生100年時代とリカレント教育	
11	教育／保育現場をめぐる現代的課題		安心・安全な場としての学校 クレーム対応	
12	連携による教育・保育		地域との連携 小学校との連携家庭との連携 地域の教育力	
13	保育者と教育		アンガーマネジメント ハラスメント 心理的安全性 場の理論	
14	これからの社会と教育		AIやロボット 社会の進化と教育 童話「となりのためき」でコミュニケーションについて学ぶ	
15	まとめ 期末試験		非認知能力とは何か 全体の振り返り 期末試験	
教科書・教材			評価基準	評価率 その他

回	テ ー マ	内 容		
垂見直樹・金俊華・大間敏行・三木一司 著 『保育のための教育原理』 ミネルヴァ書房		課題・レポート	40.0%	
		期末試験	60.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会福祉		こども未来教育学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	渡邊 英実
授 業 の 概 要				
誰にでも起こり得る様々な生活問題の原因と状況を把握する。また、私たちの生活において不可欠である社会福祉について学ぶとともに、生活課題をかかえるクライアントが社会福祉の制度やシステムによってどのように支えられているのかを理解する。				
授業終了時の到達目標				
・ 社会福祉と私たちの生活とのかかわりについて理解する。 ・ 社会福祉の施策について説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		社会福祉士 精神保健福祉士 スクールカウンセラー		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	社会保険		・ 医療保険、年金保険、介護保険、雇用保険、労災保険	
2	生活保護法		・ 生活保護の原理、原則 ・ 扶助の種類	
3	障害者総合支援法		・ 障害者総合支援法のしくみ ・ 障害者総合支援法に基づくサービス	
4	高齢者福祉		・ これからの高齢者福祉 ・ 介護保険制度の概要	
5	中間まとめ		・ 社会保険、生活保護のまとめとレポート ・ 障害者総合支援法、高齢者福祉のまとめとレポート	
6	社会福祉と私たちの生活		・ 社会福祉と私たちの生活とのかかわり ・ 人間の基本的ニーズ	
7	福祉六法		・ 福祉六法と社会福祉法 ・ 第1種・第2種社会福祉事業	
8	障害者福祉		・ 障害者総合支援法のポイント ・ ノーマライゼーション	
9	21世紀の社会福祉、児童虐待		・ 21世紀の社会福祉 ・ 児童虐待	
10	少子高齢化、援助技術		・ 少子高齢化 ・ 社会福祉援助技術	
11	保育サービス		・ 保育所、幼稚園、認定こども園 ・ 育児休業制度	
12	社会福祉施設、専門職		・ 社会福祉専門職 ・ 社会福祉施設	
13	民生委員、ひとり親家庭		・ 民生委員児童委員 ・ ひとり親家庭	
14	介護保険、権利擁護		・ 介護保険制度 ・ 権利擁護、苦情解決	
15	まとめ		・ まとめ、課題提出 ・ 科目終末試験対策	
教科書・教材			評価基準	評価率
鬼崎信好・本郷秀和編「コメディカルのための社会福祉概			期末試験	60.0%
				近大レポート

回	テ ー マ	内 容		
論」講談社		課題・レポート	40.0%	2冊

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会的養護Ⅰ		こども未来教育学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	原 隆之
授 業 の 概 要				
・ 近年、こどもの痛ましい虐待事件が後を絶たず児童虐待の増加など、こどもの問題は深刻化しています。そういった中で、社会的養護のもと、社会的養護に携わる担い手は子どもが心身ともに安心・安全に成長、発達できるよう環境を整備し養育していく必要性があります。この講義では、社会的養護の基本的理念と概念を学び、施設養護と家庭養護を様々な視点から考察・検討していきます。				
授業終了時の到達目標				
1. 社会的養護の現状や背景を理解する 2. 社会的養護の児童福祉施設を理解する 3. 社会的養護の担い手としての役割、援助について理解する				
実務経験有無		実務経験内容		
有		児童養護施設 こぶしヶ丘学園 家庭支援専門相談員（FSW）として現職		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	・ オリエンテーション	社会的養護の概念とは何かを理解し、次への学びに繋げていく。		
2	・ 社会的養護の理念と原理	社会的養護のについて学び、理念や原理に基づいた社会的養護の基盤づくりについて考えを移行して理解していく。		
3	・ 社会的養護の歴史	社会的養護の歴史的変換について学ぶ。		
4	・ 児童の権利擁護	社会的養護における権利保障や施策についての動向について学ぶ。		
5	・ 社会的養護の制度と法	日本の社会的養護の制度と関連法規について学ぶ。		
6	・ 社会的養護の仕組み	児童相談所から社会的養護の施設への実施体系について学ぶ。		
7	・ 家庭養護と施設養護	家庭養護と施設養護の現状と課題、共通点と相違点について学ぶ		
8	・ 社会的養護の専門職の詳細	専門職や実施者についての詳細について学ぶ。		
9	・ 施設養護の基本原則	施設養護の基本原則を確認しつつ、施設の役割を再認識する。		
10	・ 施設養護の実践	施設養護の支援について、入所前～入所後の支援について具体的取組から学ぶ。		
11	・ ソーシャルワークの基本的概念	養育者としてのソーシャルワークの基本的な視点や考えをもとに学ぶ。		
12	・ 運営管理の現状と課題	施設の運営及び費用や仕組みについて学ぶ		
13	・ 虐待防止の現状と課題	被措置児童の虐待の理解、虐待防止の経緯を学ぶ。さらに、虐待の現状から課題について考察していく		
14	・ 地域福祉の現状と課題	社会的養護の中の福祉施設は地域の中に存在している。地域福祉の推進がされる中、地域での役割の重要性を考察していく。		
15	・ 総括	社会的養護の理念・制度・実践などの基本的な内容を踏まえての総括を行う。		
教科書・教材		評価基準		評価率
社会的養護（基本保育シリーズ）（中央法規出版）		期末試験 課題・レポート		70.0% 30.0%
				その他

回	テ　　マ	内　　　容		

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
教職概論		こども未来教育学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	廣兼 貴恵
授 業 の 概 要				
・教職・保育職の意義やその役割、教職・保育職の職務内容などの基本的な理解をする。 ・今日の教育現場に必要な対応ができる教師を育成する。				
授業終了時の到達目標				
教育という仕事の理解と、それを追行していく為の能力を形成する。また、現在の保育者には何が求められているのか、保育者としての社会の期待に応じるためにはどのような努力をする必要があるのかについて自分なりの見識を有することを目標としている。 近大科目終末試験に合格が目標。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭等		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	授業計画の説明 レポート問題①		レポートの書き方について 近大レポート1冊目	
2	レポート問題②		近大レポート2冊目	
3	近大科目終末試験問題①		近大科目終末試験問題① 教師の研修の必要性和その意義について論じなさい。	
4	近大科目終末試験問題②		近大科目終末試験問題② 教師の身分と服務義務について論じなさい。	
5	近大科目終末試験問題③		近大科目終末試験問題③ 幼稚園・保育所の一日の流れや活動についての援助のポイントについて論じなさい。	
6	近大科目終末試験問題④		近大科目終末試験問題④ 国際化時代における教師の役割について論じなさい。	
7	近大科目終末試験問題⑤		近大科目終末試験問題⑤ 子供の仲間集団とは何かを説明し、その意義について論じなさい。	
8	近大科目終末試験問題⑥		近大科目終末試験問題⑥ 情報化と教師の役割について論じなさい。	
9	近大科目終末試験問題⑦		近大科目終末試験問題⑦ 教師の資質として最低限必要とされる4つの項目について説明しなさい。	
10	近大科目終末試験問題⑧		近大科目終末試験問題⑧ 教師・保育者の資質として求められるカウンセリングマインドについて論じなさい。	
11	近大科目終末試験問題⑨		近大科目終末試験問題⑨ 「幼稚園教員にもとめられる専門性」の中から大切だと思うものを3点選び、それを選んだ根拠を述べなさい。	
12	近大科目終末試験問題⑩		近大科目終末試験問題⑩ 「成長助成の教育」、「伝達と形成の教育」、「覚醒の教育」を説明した上で、教師の仕事について考えるところを述べなさい。	
13	近大科目終末試験問題⑪		近大科目終末試験問題⑪ 学校教職員を4つ取り上げ、それぞれの職務内容について説明しなさい。	
14	近大科目終末試験問題⑫		近大科目終末試験問題⑫ カウンセリングマインドにおけるロジャースの3原則について説明しなさい。	

回	テ ー マ	内 容		
15	試験対策 まとめ	保育士や幼稚園教諭について考える。 社会人になるにあたってのまとめをする。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
古橋和夫編 書林)	『教職入門』 未来の教師に向けて（萌文	期末試験 課題・レポート	70.0% 30.0%	【準備学習】 前回の授業内 でノート提出 ができなかつ た人は、ノー トを完成させ て提出する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
教育心理学		こども未来教育学科／1年	2025／後期	演習	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	8回	1単位（16時間）	必須	豊田 尚子	
授 業 の 概 要					
教育心理学とは、教育に関する諸事象について心理学的に研究し、教育の効果を高めるのに役立つような心理学的な知見や技術を提供する学問である。内容としては、「言語・遊びの発達」「発達障がい」「学習理論」「乳幼児期の学びの過程と特性」「虐待」などを学ぶ。 スクールカウンセラー（臨床心理士）としての実務経験を踏まえ、教育心理学という学問が現場でどのように活用されていくかを伝えていく					
授業終了時の到達目標					
①「言語の発達」「遊びの発達」「学習理論」について理解する ②「乳幼児期の学びの過程と特性」またそれに関わる保育について理解する ③現在の社会的・教育的課題とも言える「発達障がい」「虐待」について理解する					
実務経験有無		実務経験内容			
有		精神保健福祉士 臨床心理士 スクールカウンセラー			
時間外に必要な学修					
回	テ ー マ		内 容		
1	イントロダクション 認知の発達		ピアジェの理論を通じて子どもの認知発達について学ぶ。 ＊同化と調節 循環反応 保存 自己中心性 脱中心化 知的好奇心 乳児の知覚機能		
2	言語の発達		言語の機能と言語を獲得するプロセスについて学ぶ。 ＊内言と外言 オノマトペ 初語 語彙の獲得 文法の獲得 受容と表出コミュニケーション		
3	遊びの発達		遊びとは何かを理解し、遊びの発達に関する研究を学ぶ。 ＊カイヨワ ビューラー パーテン ごっこ遊び		
4	発達障害と発達		代表的な発達障害と早期発見・早期支援について学ぶ。 ＊知的障害 ADHD ASD グレーゾーン 二次障害		
5	虐待から考える発達		虐待とは？虐待の与える影響や虐待予防について学ぶ。 ＊マルトリートメント トラウマ 愛着障害 複雑性PTSD		
6	保育にいかす学習理論		学習の意味と3つの学習理論、保育にいかす技法を学ぶ。 ＊レスポナント条件づけ オペラント条件づけ 観察学習 応用行動分析		
7	乳幼児期の学びの過程と特性 乳幼児期の学びを支える保育		乳幼児期の学びの過程と特性を理解し、関わり方を学ぶ。 ＊エリクソンの自我発達理論 発達段階 発達課題 危機 自尊感情 有能感 アイデンティティ 自己実現 学びを支える保育者の関わりと保護者の役割を学ぶ。 ＊応答的関わり 保育者と子ども、子ども同士のコミュニケーション 小集団 学級経営 保育者の職業的成長 愛着理論と親子関係 ほどよい母親 親としての発達 保護者支援		
8	まとめ 科目終了試験		まとめと補足 科目修了試験		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
原口喜充編著 実践にいかす保育の心理学 ルヴァ書房 レジュメ（補足用）			ミネ 期末試験 授業態度	80.0% 20.0%	・自分自身の考えや疑問を大切に する 【準備学習】 次回の学習内容の把握

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
教育課程総論		こども未来教育学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	桑田 由美
授 業 の 概 要				
教育課程の目的や目標を理解し、子どもの心身の発達に即した指導計画を作成する為に必要な基礎的な力を養う。 幼稚園教育の基本について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
教育課程の目的や目標を理解し、子どもの心身の発達に即した指導計画を作成できるようになる。 幼稚園と保育園の違いについて理解する。 幼稚園教育について理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	幼稚園教諭			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	はじめに	幼稚園教諭の仕事の魅力 幼稚園教育と保育所保育、認定こども園について		
2	教育課程の意義と方向性	教育課程の概念 教育課程改革の理念 幼稚園保育所の共通する保育のあり方		
3	教育課程に関する法制	幼稚園 保育所 認定こども園に関する法制 教育課程の基準の変遷		
4	幼児教育課程の基本	環境を通して行なう教育 幼児期にふさわしい生活の展開 遊びを通しての総合的な指導 一人ひとりの発達の特性に応じた指導		
5	基礎となる幼児の姿 園の教育目標	「楽しさ」をどうとらえるか 園の教育目標		
6	教育課程の編成と指導計画の作成 教育課程の評価	編成の手順 指導計画の意義 指導計画の作成 指導計画と教育課程の評価		
7	幼稚園教育要領	幼稚園教育要領のねらいと内容		
8	幼稚園教育要領	幼稚園教育要領のねらいと内容 留意事項		
9	期末試験	期末試験		
10	日案、指導案の説明	日案、指導案の説明		
11	日案の作成	日案の作成		
12	日案の作成	日案の作成		
13	日案の作成	日案の作成		
14	日案の作成	日案の作成		
15	日案の作成	日案の作成		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
あたらしい幼児教育課程総論（同文書院）		期末試験	70.0%	【準備学習】

回	テ　　マ	内　　　　容	
		課題・レポート	30.0% 前回の授業内で課題提出ができなかった人は、課題を完成させて提出する。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育内容総論		こども未来教育学科／1年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	桑田 由美
授 業 の 概 要				
『保育所保育指針解説書』を中心に、保育をめぐる基礎知識を習得し、基本原理を理解することを目指す。同時に、基本原理を踏まえ、指導計画を立案し、実践する力を養う。講義形式の他、グループワークや受講生同士の議論を通して、保育実践を構築し、批判的に検討できる力の素地を培う。				
授業終了時の到達目標				
①保育所保育の史的展開を踏まえ、保育所保育と子どもをめぐる現状と課題について説明できる。 ②保育所保育の役割、環境を通して行う保育、保育における遊びの位置づけなどの基本原理について説明でき、実践に反映できる。 ③保育の総合性を踏まえ、指導計画を立案し、実施することができる。 ④子どもの最善の利益について複眼的に思考し、保育実践を批判的に検討することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	保育の基本原理 保育内容の理解①	保育所保育の目的・役割 乳幼児の発達		
2	保育内容の理解②	保育内容「5領域」・「ねらい」・「内容」の意味		
3	保育内容の理解③	保育の総合性とは何か 保育指導上の留意点 保護者支援の留意点		
4	指導計画 試験	指導計画立案の考え方・書き方の基本 試験		
5	保育ボランティア （ボランティア未実施の場合：指導計画立案）	保育ボランティア体験 （ボランティア未実施の場合：指導計画立案）		
6	保育ボランティア （ボランティア未実施の場合：指導計画立案）	保育ボランティア体験 （ボランティア未実施の場合：指導計画立案）		
7	保育ボランティア （ボランティア未実施の場合：指導計画立案）	保育ボランティア体験 （ボランティア未実施の場合：指導計画立案）		
8	保育ボランティア （ボランティア未実施の場合：指導計画立案）	保育ボランティア体験 （ボランティア未実施の場合：指導計画立案）		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『はやわかりBOOK 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』無藤隆・汐見稔幸 学陽書房		期末試験 実習・実技評価	70.0% 30.0%	主体的に積極的な姿勢でボランティアを行う。 【準備学習】 保育所保育指針を読む

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
健康（指導法）		こども未来教育学科／1年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	水原 紫乃
授 業 の 概 要				
幼稚園教育要領や保育士保育指針における「健康」領域の中核的な保育内容となる「運動あそび」と「基本的生活習慣」に関する保育者の指導・援助の在り方をテーマとして検討していく。				
授業終了時の到達目標				
・ 幼稚園教育要領および保育所保育指針に示される「ねらい」「内容」などの「健康」領域の構造を理解する。 ・ 「健康」に関する保育内容（①就学前段階の運動遊びの指導・援助、②基本的生活習慣の形成及びその援助、③健康、安全に関する保育活動）および方法実践的に探究していくために必要な基礎的な知識、技能を獲得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園園長		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～ 4	・ 領域「健康」 ・ 乳幼児の「健やかな心と身体」		・ ねらいと内容 ・ 乳幼児の心身の発達の捉え方 ・ 基本的生活習慣と食育 ・ 安全指導 ・ 予防と健康な生活	
5～ 8	運動あそび：理論 運動あそび：実践 まとめ		・ 年齢に応じたねらいと内容 ・ 子どもの体力づくり ・ 運動意欲を育む指導 ・ 運動あそび、リズムあそび、ダンス	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領		実習・実技評価	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
人間関係(指導法)		こども未来教育学科／1年	2025／前期	演習	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	8回	1単位（16時間）	必須	桑田 由美	
授 業 の 概 要					
子どもの人間関係形成をめぐる諸課題について理解を深め、領域「人間関係」の内容および意義について学習する。また、子どもが、単に集団にうまく適応することのみを問題にするのではなく、「他者理解」を通して人の豊かなかわりを経験することの意義を学ぶ。人との豊かなかわりを育てる保育者としての役割について学習する。					
授業終了時の到達目標					
・ 領域「人間関係」に関する教育・保育内容および指導に関する知識・技術を習得する。 ・ 子どもの発達を領域「人間関係」の観点で捉え、子どもの理解を深める。					
実務経験有無		実務経験内容			
有		幼稚園教諭			
時間外に必要な学修					
回	テ ー マ		内 容		
1～4	・ 領域「人間関係」 ・ 他者との関わりからの学び		・ ねらいと内容 ・ 自我の芽生えと人との関わり ・ 子ども同士の関わり ・ 保育者との関わり ・ 関わる力を育む保育者の役割と援助		
5～8	「人間関係」の重要性		・ 子どもの関わりの世界を支える保育士同士の関係 ・ 「集団」での子どもの人間関係 ・ 良好な人間関係 ・ 関わりで気になる子どもへの援助		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			期末試験 課題・レポート	70.0% 30.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
環境（指導法）		こども未来教育学科／1年	2025／後期	演習	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	8回	1単位（16時間）	必須	桑田 由美	
授 業 の 概 要					
領域「環境」について解説し、子どもたちを取り巻く環境の現状や問題について考察します。また、具体的生活体験を重視した保育指導力育成のための実践的授業や環境教育を視野に入れた授業を実施します。命の大切さを学ぶとともに観察力を向上させることで子ども一人一人の発達の特性に応じた総合的な指導力を養います。					
授業終了時の到達目標					
子どもたちに影響を与える環境の現状・問題について説明することができる。現在の環境で子どもたちが生きる力を培うための保育の工夫、すなわち自然体験・社会体験などの具体的生活体験を重視した保育、特に子どもの自然とのかかわりを深める保育を自ら設定して実践的に指導することができる。様々な観察を通して、観察力・集中力を身につけることができる。					
実務経験有無		実務経験内容			
有		幼稚園教諭			
時間外に必要な学修					
回	テ ー マ		内 容		
1～4	環境と子ども 保育者の役割		実践的保育演習 子どもの周囲の環境の実態 保育者の役割		
5	環境とは		幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」の解説 身近な自然にかかわる保育の理論的解説 環境としての保育者の役割		
6	身近な自然		身近な自然の探索		
7	身近な自然		身近な自然の探索		
8	身近な自然		野菜や果物の栽培方法 小さな生き物の飼育方法		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
『はやわかりBOOK 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』無藤隆・汐見稔幸 学陽書房			課題・レポート	100.0%	主体的に積極的な姿勢でボランティアを行う。 【準備学習】保育所保育指針を読む。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
言葉（指導法）		こども未来教育学科／1年	2025／前期	演習	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	8回	1単位（16時間）	必須	水原 紫乃	
授 業 の 概 要					
『保育所保育指針』・『幼稚園教育要領』における保育内容・言葉の「目標」「ねらい」「内容」を理解し、保育者としての子どもとの関わり方についての具体的な実践方法について検討し、実践できる力を身につけることを目指す。					
授業終了時の到達目標					
①人間にとっての言葉（言語）の役割・言語獲得の理論を理解し、説明できる。 ②子どもの言葉を育む適切な環境について理解し、保育者としての子どもとの関わり方を身につけ、実践できる。 ③保育所保育指針における保育内容「言葉」を理解し、言語環境の構成・言葉の力を育む指導を実践できる。					
実務経験有無		実務経験内容			
有		幼稚園園長			
時間外に必要な学修					
回	テ ー マ		内 容		
1～4	・領域「言葉」 ・保育者の関わり方		・ねらいと内容 ・乳児期の言語について ・幼児期の言語について ・様々な手段としての言葉 ・言語指導方法 ・子どもの言葉を引き出す話し方、聞き方		
5～8	・言葉に対する感受性や表現力 ・まとめ		・言葉による表現方法を詩、ペープサート、読み聞かせなどの物語教材を通して体験、実践し、表現力を身につける ・読み聞かせ、演技での留意点・方法 ・振り返り		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			実習・実技評価	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
造形表現（指導法）		こども未来教育学科／1年	2025／前期	演習	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	8回	1単位（16時間）	必須	桑田 由美	
授 業 の 概 要					
・ 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、表現領域のねらい及び内容を理論と実践を通して理解する。 ・ 造形表現の技法、身近な素材教材への応用など、常に他分野と共存する幼児の生活を学び、具体的な指導場面を想定して保育を構成する方法と、造形表現の基礎教養を各課題と体験、資料配布と定期試験を行うことで教授する。					
授業終了時の到達目標					
幼稚園教育において、はぐくみたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された「表現」のねらい及び内容について背景となる造形表現と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構成する方法を身につける。					
実務経験有無		実務経験内容			
有		幼稚園教諭			
時間外に必要な学修					
回	テ ー マ		内 容		
1～4	五領域「表現」 保育現場における表現技法		・ 表現技法における基礎知識 ・ 様々な造形表現技法について考え、経験する ・ 平面、立体、絵具などの教材研究 ・ 発達段階に合った造形表現について考える		
5～8	造形製作 作品発表会		・ 様々な表現技法を用いて製作する ・ 発達段階に合わせた製作 ・ 作品の発表		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			課題・レポート	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
幼児と音楽表現		こども未来教育学科／1年	2025／通年	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	68回	9単位（136時間）	必須	日野 みどり
授 業 の 概 要				
ピアノ：個人レッスンの形態で行います。記録票のグレードに従い、学生の力量に合わせた指導を行います。				
授業終了時の到達目標				
保育者として、子どもに歌い聴かせうるための基礎（発声法）を学ぶとともに、基本的な音楽理論を理解することを目標とします。また、弾き歌いに必要となる鍵盤楽器の基礎を身につけることを目標とします。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	ピアノ講師			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～4	導入（ピアノの必要性の説明） 音の読譜（ト音記号 ヘ音記号）・拍子		各学生のレベルに合わせた個人レッスンと練習方法の指導（近大テキスト）	
5～8	音の読譜（ト音記号 ヘ音記号） 拍子・音符・タイ・指番号の必要性		指の運動・指番号の必要性。4拍子、3拍子など単純拍子の取り方。4分・2分音符の長さ レベル①（記録票①）	
9～12	音の読譜（ト音記号 ヘ音記号） 全音符から16分音符までの接続練習 音楽で必要な記号・表現の習得		16分音符の練習・オクターブ記号・反復記号（リピート） 前打音 装飾音の演奏方法・強弱記号の理解	
13～16	音の読譜（ト音記号 ヘ音記号） 全音符から8分音符までの接続練習 臨時記号の理解		8分音符の練習・オクターブ記号・反復記号（リピート）・複合拍子のとり方 臨時記号（サビ、木位記号）の仕組みと演奏方法	
17～20	音の読譜（ト音記号 ヘ音記号） 全音符から16分音符までの接続練習 音楽で必要な記号・表現の習得		16分音符の練習・オクターブ記号・反復記号（リピート） 前打音 装飾音の演奏方法・強弱記号の理解	
21～24	レベル①試験曲対策		ピアノレベル①近大課題試験曲の練習・対策	
25	レベル①試験曲対策		ピアノレベル①近大課題試験曲の対策（リハーサル）	
26	ピアノレベル①試験		ピアノ実技試験	
27～30	近大指定レベル②の説明 弾き歌いの導入		4・5月に歌われる童謡・唱歌	
31～34	弾き歌い 季節の曲		6・7・8月に歌われる童謡・唱歌	
35～38	弾き歌い 季節の曲		9・10・11月に歌われる童謡・唱歌	
39～42	弾き歌い 季節の曲		12・1・2・3月に歌われる童謡・唱歌	
43～46	レベル②試験対策		ピアノレベル②近大課題試験曲の練習・対策	
47～58	レベル②試験対策		ピアノレベル②近大課題試験曲の対策 リハーサル	

回	テ ー マ	内 容
59～ 60	レベル②試験対策	ピアノレベル②近大課題試験曲の対策 リハーサル

回	テ ー マ	内 容		
61～ 68	実技試験	近大課題曲練習 近大ピアノ試験対策 ピアノ実技試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
近畿大学九州短期大学 「音楽Ⅰ〈声楽教本〉」「音楽Ⅰ〈ピアノ教本〉」 こどものうた２００		実習・実技評価	100.0%	授業までに 出された課題曲 を練習してく ること。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
幼児と言葉		こども未来教育学科／1年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	中居 雅子
授 業 の 概 要				
本科目は、子どもの情操教育に重要な絵本や紙芝居について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
1. 各年齢に適した絵本や紙芝居を選べる。 2. 子どもに向けて絵本の読み聞かせができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		保育士、幼稚園教諭		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	授業計画 領域「言葉」について	授業の説明 言葉を育む 言葉を育むための保育者の援助について レポート作成 言葉と絵本について		
2	絵本の読み聞かせ	手遊び・読み聞かせの手本を見る 絵本の読み聞かせをする ノート作成		
3	絵本の読み聞かせ	絵本の読み聞かせをする ノート作成		
4	絵本の読み聞かせ	手遊びをする 絵本の読み聞かせをする ノート作成		
5	絵本の読み聞かせ	手遊びをする 絵本の読み聞かせをする ノート作成		
6	絵本の読み聞かせ	手遊びをする 紙芝居の読み聞かせをする ノート作成		
7	絵本の読み聞かせ	手遊びをする 紙芝居の読み聞かせをする ノート作成		
8	科目終了試験	実技試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
皆川 晶「幼児と言葉」		実習・実技評価 課題・レポート	60.0% 40.0%	・主体的に授業に参加すること。 ・読み聞かせを発表する際は、事前に練習を行うこと。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
教育方法論		こども未来教育学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	桑田 由美
授 業 の 概 要				
保育者という職務のあり方の本質的な理解を深める。実践的教育方法について学ぶ。				
指導案の立案。				
授業終了時の到達目標				
保育者という職務のあり方、実践的教育方法を理解している。 指導案が作成できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	幼稚園教諭			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	幼児期にふさわしい教育の方法 幼児の主体的な生活を基盤とする保育 遊びの中の学びをはぐくむ保育	幼児の主体的な生活を基盤とする保育 環境を通しての教育 遊びを通しての学び 子どもの主体性と保育者の意図		
2	遊びのねらいを考える 指導案作成の説明	遊びのねらいを考える 指導案作成の説明 指導案作成の遊びの決定		
3	指導案作成①	指導案作成の説明 指導案を作成する。 保育の構成を考える（導入－展開－まとめ） 指導案を書く		
4～ 5	指導案作成②	指導案を作成する。		
6～ 7	指導案作成③	指導案を作成する。		
8～ 9	指導案作成④	指導案を作成する。		
10～ 11	指導案作成⑤	指導案を作成する。		
12～ 14	指導案作成⑥	指導案を作成する。		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
幼児教育の方法 北大路書房		期末試験 課題・レポート	70.0% 30.0%	分からないことは自分から質問する態度を身につけよう。 【準備学習】 前回の授業内で課題提出ができなかった人は、課題を完成させて提出する。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
幼児の心理学		こども未来教育学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	豊田 尚子
授 業 の 概 要				
幼児の心理学では、発達心理学をベースに置き、新生児期から幼児期の子どもたちに焦点をあてて学習する。学習内容は“発達の理論”から始まり、各論として“感情”，“社会性”，“認知”，“言語”の発達について学ぶ。その学びに新生児期から幼児期の子どもたちの特徴、留意すべき事柄などを加え、理論と実践を結びつけていけるように学習をすすめていく。				
授業終了時の到達目標				
①発達の各論について理解する ②発達障害について理解する ③理論と実践を結びつけて考える				
実務経験有無		実務経験内容		
有	精神保健福祉士 公認心理師 臨床心理士 スクールカウンセラー			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	イントロダクション 発達を学ぶ意義	発達とは、心理学とはどういうことかを学ぶ。 ＊生理的早産説 発達の最近接領域 研究法 生涯発達		
2	子どもの発達と環境	発達に影響する遺伝と環境に関する考え方を学ぶ。 ＊成熟優位説 環境説 輻輳説 環境閾値説 エコロジカルモデル 発達研究法		
3	発達理論と子ども観・保育観	「子ども観」の変化を知る。さまざまな発達理論を学ぶ。 ＊少子化 ピアジェの認知発達理論 ウィニコット		
4	身体と運動機能の発育・発達	身体の発育・発達と運動機能の発達を理解する。 ＊発育曲線 原始反射 発達の原理 発達課題		
5	発達を支えるアタッチメント（愛着）	アタッチメント（愛着）理論とその重要性を学ぶ。 ＊ボウルビィ ストレンジ・シチュエーション法 親子関係		
6	自己の感情・情動の発達	感情発達と情動調整の発達のプロセスを理解する ＊一次的感情 二次的感情 自己意識 情動調整 しつけのプロセス		
7	社会性の発達	新生児期から幼児期の社会性の発達について学ぶ。 ＊微笑 社会的参照 共同注意 心の理論 いざこざ		
8	まとめ 科目終了試験	まとめと補足 科目終了試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
原口喜充編著 実践に活かす保育の心理学 ルヴァ書房 レジュメ（補足用）		ミネ 期末試験 授業態度	80.0% 20.0%	・自分自身の考えや疑問を大切に する 【準備学習】 次回の学習内容の把握

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
音楽表現(指導法)		こども未来教育学科／1年	2025／後期	演習	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	8回	1単位（16時間）	必須	廣兼 貴恵	
授 業 の 概 要					
・幼児音楽にたずさわる保育者の、音楽技術の習得や資質の向上を目指す。 ①楽譜の読譜力 ②リズム感 ③現場で童謡唱歌を伝える力をつけさせる。（実習に向けて弾き歌いの曲への取り組み。） ④身体表現					
授業終了時の到達目標					
幼児教育における音楽表現の基礎知識及び指導・援助に関する知識・技術を習得する 音・音楽による表現を主として、様々な角度から音楽表現について考えます。 保育活動における音楽の役割を理解し、子どもの音楽表現活動(音楽あそび)に関する基礎知識及び指導・援助に関する知識・技能を習得します。					
実務経験有無		実務経験内容			
有		幼稚園教諭等			
時間外に必要な学修					
回	テ ー マ		内 容		
1	導入		学生の特技や個性などを掌握したうえで本授業の目標を明確にし、到達点を意識する グループを決める。		
2～3	手袋シアターを作ろう 弾き歌いについて学ぼう		手遊び歌やわらべ歌をもとに手袋シアターを作ろう。 現場で指導したい曲を選び、弾き歌いについて学び練習する。		
4	身体表現		リトミック		
5～6	手袋シアターを作ろう 弾き歌いについて学ぼう		発表に向けて制作や練習を行う。		
7	リハーサル		発表(製作した作品を使用しての歌唱指導)へ向けてのリハーサル		
8	音楽発表会		弾き歌い指導の発表（実技試験） それぞれグループに分かれ、年令にあった曲を創作し演奏発表をする。（それぞれの実践・発表を通じて意見を出し合い、知識・技術・意欲を高める。）		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
プリント こどものうた 200 続・こどものうた 200 手袋シアターに必要なと思われる材料			実習・実技評価	100.0%	授業は欠課することなく参加すること。 皆と協力し発表会を成功させること。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
劇あそび(指導法)		こども未来教育学科／1年	2025／後期	演習	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	8回	1単位（16時間）	必須	水原 紫乃	
授 業 の 概 要					
領域「表現」を観点に、発達段階に応じた子どもの遊び（ごっこ、劇あそび）の内容と意義について学習する。伴う表現活動（歌う、演奏する、踊るなど）の演習課題を通し、感じたり、考えたり、想像したり、創造する力を養う。					
授業終了時の到達目標					
・ 領域「表現」の「ねらい」「内容」について理解する。 ・ 子どもの発達に即したあそびの過程を理解し、どのような援助が必要か考えることができる。 ・ 子どもの表現を育てうる実践力と指導法を身につける。					
実務経験有無		実務経験内容			
有		幼稚園園長			
時間外に必要な学修					
回	テ ー マ		内 容		
1～4	○「表現」の領域に関する教育、保育のねらい及び内容の理解 ○保育における劇遊びの必要性 ○表現することを楽しむための援助		・ 子ども達の何を育てたいのか ・ ねらいや内容は何か ・ 表現の視点から劇遊びを考える ※発達段階を踏まえて ①ごっこ遊びから劇遊びへ ②役で表現する楽しさ ③メーじや表現の場を共有して創る楽しさ ④観られることへの意識 ⑤お互い評価することの経験		
5～8	○劇遊びのポイント ○余裕を持つての計画とは ○子どもが主体		・ 子ども達の何を育てたいのかねらいの明確化 ・ 役になりきって楽しむために ・ 自分なりにセリフや動きを考えるために ・ 友達と一緒に劇を作り上げるために ・ 子ども達の希望やねらいが達成されているか ・ 個々の活躍の場とは ・ 主体的な取り組みになっているか ・ 個々の表現に対してきちんと言葉で伝えることの重要性とは ○グループごとに表現遊び発表・鑑賞 ・ 反省、課題、まとめ		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			実習・実技評価	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
幼児と人間関係		こども未来教育学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	中居 雅子
授 業 の 概 要				
子どもの人間関係形成をめぐる諸課題について理解を深め、領域「人間関係」の内容および意義について学習する。人との豊かなかかわりを育てる保育者としての役割について学習する。 保育現場で必要なドキュメンテーションを作成する				
授業終了時の到達目標				
・ 領域「人間関係」に関する教育・保育内容および指導に関する知識・技術を習得する。 ・ 年齢別にドキュメンテーションを作成する中で子どもの発達段階について理解を深める。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		保育士、幼稚園教諭		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～ 2	保育内容の人間関係とはなにか 子どもの発達と人間関係		保育の基本と領域「人間関係」 子どもを取り巻く社会の状況 領域「人間関係」の「ねらい及び内容」の取扱い 子どもを取り巻く生活環境について 子どもの遊び環境について	
3	子どもの発達と人間関係		ドキュメンテーショ作成について 資料集め	
4～ 7	子どもの発達と人間関係		人とのかかわりのドキュメンテーション作成 0歳児 「愛着関係」 3歳児「自立心」 4歳児「子どもの自己主張と自己発揮、いざこざ・けんかなどのトラブル」 5歳児「おもいやり・協力・集団、道徳性・規範意識」	
8	期末試験		ドキュメンテーション発表	
教科書・教材			評価基準	評価率
金 俊華 「幼児と人間関係-保育者をめざす」同文書院 パソコン			期末試験 課題・レポート	60.0% 40.0%
				主体的に積極的に授業に参加すること。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
幼児と環境		こども未来教育学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	中居 雅子
授 業 の 概 要				
領域「環境」について解説し、子どもたちを取り巻く環境の現状や問題について考察します。また、具体的生活体験を重視した保育指導力育成のための実践的授業や環境教育を視野に入れた授業を実施します。命の大切さを学ぶとともに観察力を向上させることで子ども一人一人の発達の特性に応じた総合的な指導力を養います。				
授業終了時の到達目標				
子どもたちに影響を与える環境の現状・問題について説明することができる。現在の環境で子どもたちが生きる力を培うための保育の工夫、すなわち自然体験・社会体験などの具体的生活体験を重視した保育、特に子どもの自然とのかかわりを深める保育を自ら設定して実践的に指導することができる。様々な観察を通して、観察力・集中力を身につけることができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		保育士、幼稚園教諭		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	保育の基本と保育内容 環境とかかわる力		身近な自然との関わり レポート作成 テーマ「身近な自然と子ども」「子どものころの自然体験」	
2	身近な環境との関わりに関する領域「環境」		領域「環境」のねらいについて	
3	身近な環境との関わりに関する領域「環境」		子どもを取り巻く環境について 環境を通して行う教育・保育	
4	身近な環境との関わりに関する領域「環境」		人的環境としての保育者の役割について	
5	身近な環境との関わりに関する領域「環境」		標識とマーク、国旗について	
6	身近な環境との関わりに関する領域「環境」		日本の伝統的な行事について 伝承遊びと正月遊びについて	
7	身近な環境との関わりに関する領域「環境」		自然と関わる遊びについて 動物、植物、土、その他	
8	身近な環境との関わりに関する領域「環境」		期末試験	
教科書・教材			評価基準	評価率 その他
最新保育講座 保育内容「環境」（ミネルヴァ書房）			課題・レポート 期末試験	50.0% 50.0% 主体的に積極的に授業に参加すること。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
造形表現Ⅱ		こども未来教育学科／1年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	桑田 由美
授 業 の 概 要				
講義では、幼児画の発達過程と特長の理解を深め、幼児期の発達に適した創作活動の援助について考察する。				
授業終了時の到達目標				
幼児画の発達過程と特長を理解する。幼児期の発達に適した創作活動の援助ができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～4	課題2		課題2 幼児教育における美術表現技法の製作 レポート作成	
5～6	課題3		課題3 色彩演習基礎（提出：作品×2点） 色の4原色（赤・黄・青・緑）と、白・黒を使用し、色の輪を2点制作	
7～8	課題1		課題1「幼児の造形表現の発達段階と身体的発達の特徴」 レポート作成	
教科書・教材			評価基準	評価率
造形表現Ⅱ 近畿大学九州短期大学			課題・レポート 実習・実技評価	70.0% 30.0%
				それぞれの技法を理解して製作に取り掛かること。 【準備学習】 テキストで各技法を調べておく

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
音楽(理論)		こども未来教育学科／1年	2025／通年	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	日野 みどり
授 業 の 概 要				
幼児の音楽に必要な基礎的知識、楽譜の理解、楽譜の読み方、譜面上に記載された約束事を理論によって学び基礎から専門的な音楽に至るまでのプロセスを身に付ける。楽譜が伝えてくれる音楽を出来るだけ正しく理解し演奏できるようにする。 声 楽：グループレッソンの形態で行います。コーリユーブンゲンでは音程とリズム、コンコーネでは歌唱表現を重視し、子どもの歌も使用し作品解釈も行います。				
授業終了時の到達目標				
音楽理論の基礎知識の習得 近大声楽レベル①の合格				
実務経験有無		実務経験内容		
有		ピアノ講師		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～ 2	導入 音の種類	科目の目的 授業の進め方 レポート提出の仕方 科目終末試験やスクーリングの説明		
3～ 4	楽譜(その一)(その二) 拍子 楽語	譜表(五線・加線) 音部記号 音符と休符の種類と長さ(付点・複付点音符休符)		
5～ 6	音程① 音程② 楽譜	度数 音程における完全・長・短等の種類 完全系の度数 長短系の度数 音程の転回 音符の省略記号・反復記号・雑記号 装飾音 装飾記号		
7～ 8	音階① 音階②	長音階 和声的短音階 調判定 日本音階(陽音階・陰音階) 民謡 わらべうた		
9～ 10	調号 調の相互関係	調号 近親調		
11～ 12	和声① 和声② 楽式① 楽式②	三和音の作り方 三和音の種類 属七の和音 コードネーム法と読み方		
13	演奏(声編)	声 声の種類 声と演奏方法・形態		
14	演奏(楽器編)	楽器と種類(分類法) 楽器と演奏方法・形態		
15	近大レポート	近大レポート提出 清書		
16～ 18	復習	近大科目終末試験対策 過去問題		
19	近大試験	近大科目終末試験		
20	声楽	発声練習 リズムの基本的な練習 近大レベル①歌唱練習(コールユーブンゲン・コンコーネ50番より)		
21	声楽	発声練習 リズムの基本的な練習 近大レベル①歌唱練習(コールユーブンゲン・コンコーネ50番より) こどもの歌		

回	テ ー マ	内 容		
22～ 23	声楽	近大声楽レベル①試験対策 発声練習 合唱曲 子どもの歌 近大声楽レベル② 予習		
24～ 30	声楽	近大声楽レベル①試験対策 発声練習 子どもの歌 近大声楽レベル②予習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
楽典 音楽Ⅱ（理論：近大テキスト） 音楽Ⅰ（声楽教本） プリント		期末試験 課題・レポート	70.0% 30.0%	授業は欠課することなく参加しましょう。近大レポートなど提出日は必ず守る事。声楽は授業の中でしっかりと歌いその曲を覚

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育演習Ⅰ		こども未来教育学科／1年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	中居 雅子
授 業 の 概 要				
本科目は、保育園や幼稚園で必要な知識や実践的技術の習得する。				
授業終了時の到達目標				
1. 保育者としての基本的技術が習得できる。 2. 壁画制作をグループで完成させる。 3. あなかれほいくえんとの交流に向けて、練習をし、実践する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭・保育士		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	あなかれほいくえんとの交流にむけて グループ製作(壁画)		ダンスとかけっこ援助方法 製作（壁画）グループ分け 模擬保育(グループ) 弾き歌い（あさのうた）・手遊び・絵本の読み聞かせ	
2～ 11	グループ製作(壁画) あなかれほいくえんとの交流にむけて あなかれほいくえんとの交流		テーマを決めて、保育実習室の壁画(春夏秋冬)製作をする グループに分かれて練習、交流をする 弾き歌い（あさのうた）・手遊び・絵本の読み聞かせ	
12～ 15	あなかれほいくえんとの交流 クリスマス用の帽子づくり		クラス（0.1.2歳）に合わせた内容をグループで考えて準備と製作を行う あなかれほいくえんの子どもたちと一緒に製作をする	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	100.0%	・主体的に授業に参加すること。 ・意見を出し合い、協力して行うこと。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
教育実習事前事後指導		こども未来教育学科／1年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	桑田 由美
授 業 の 概 要				
幼稚園教諭二種免許状取得に向けた教育実習が円滑かつ有意義に行われるよう、以下のような教育実習にかかわる基礎的な知識の理解を深めていく。 ・ 幼児の発達段階 ・ 幼稚園の機能と役割 ・ 幼稚園教諭の食と役割 ・ 記録の作成方法 ・ 指導計画立案の方法				
授業終了時の到達目標				
・ 教育実習に向けた「事前」の心構えや準備に関する基礎的知識を理解する。 ・ 観察記録の作成、指導計画の立案の方法を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭		
時間外に必要な学修				
事前準備				
回	テ ー マ		内 容	
1～4	教育実習の意義 幼稚園の機能と役割、法的根拠、幼稚園教諭を取り巻く状況 幼稚園教諭の職務と役割 幼児期の発達課題と家庭との連携 実習園の選定と情報収集		実習の必要性や姿勢と心得について 保育と教育の違いについて 幼稚園教諭の職務と守秘義務 発達の目安と保育のポイント 家庭との連携の必要性 実習園について ・ 実習園の沿革と運営 ・ 実習園の職員配置、クラス、環境等 ・ オリエンテーション含むメモから実習日誌へつなぐ	
5～8	各実習の内容理解 日誌の記録の仕方の理解 指導計画の作成の方法		見学実習、観察実習、参加実習、一日実習、部分実習、研究保育について 日誌の記録方法 子どもの姿が反映された記録の取り方 年齢を設定し、実際に指導計画を作成 模擬保育の実施	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 幼稚園教育要領 ・ 幼保連携認定こども園教育・保育要領		実習・実技評価	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会人基礎講座Ⅰ		こども未来教育学科／1年	2025／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	桑田 由美
授 業 の 概 要				
将来のありたい姿を考えること及び、ボランティアや実習に向けて事前準備を行い、社会人になることに自覚を持つことをねらいとする。				
授業終了時の到達目標				
将来のありたい姿を考える				
ボランティアや実習に向けて積極的に事前準備を行い実践することができる 社会人になる自覚を持つ				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～6	社会人の心構え 保育園・幼稚園の研究		社会人とは 一般常識 保育園・幼稚園の情報収集 ボランティア先の決定	
7～15	実習先研究 実習依頼		来年度実習先の決定 電話の仕方 訪問時の諸注意 社会人としての常識 先生になる自覚を持つ	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		総合評価	100.0%	